

酔っておしっこで脳貧血



脳貧血で意識を失うのは、風呂場とは限らない。トイレで倒れるということもある。が、水洗トイレで溺死ということはない。

43歳男性。Mさん。忘年会で盛り上がり、しこたま酔ってうたた寝をしていた。午後11時ごろに、おしっこがしたくなり、急いでトイレへ行った。気持ちよく排尿しているうちに、気付いたら頭をドアにしたたかぶつけていた。話を聞いただけで診断がつく。「排尿失神」である。てんかん？ それとも脳梗塞か？ などと周りが騒ぐから、Mさんはパニックだ。が、頭の精密検査では異常はない。排尿失神とは、排尿中または排

排尿失神

尿後に脳貧血を起こして意識がなくなる発作のことだ。立って排尿する男性で中高年に圧倒的に多い。が、20歳代の若者にも起きる。Mさんのように、酒に酔って寝ている時に排尿失神を起こしやすい。酒を飲むと、全身の血管は拡張し、血圧が下がっている。寝ているだけで、血圧は下がっている。急に立ち上がると、多くの血液が下半身に移動する。

排尿時には、膀胱の神経興奮が延髄にある血液の循環中枢を刺激する。反射的に心臓の働きが抑えられ、全身の血管も拡張する。ますます、脳へ行く血液量が少なくなってしまうのだ。ひどければ意

「座って出す」がお勧め

識を失い、倒れる。が、わずか数秒か数分で、血流は戻り意識も回復する。まずは、死ぬことはない。後遺症もない。

とはいえ、また痛い目に遭うのはごめんだ。まして、外出先で失神したらなんて、考えたくもなからう。でも、排尿失神には特定の治療法はなく、効果のある薬物もない。かといって、アルコールを制限しなさいと、医者の方にもできないことを患者さんには言いにくい。で、便器に座っての排尿を勧めたのだが、Mさんに睨まれた。若い。まだ抵抗があるのだ。

(石黒修三 しいしくるクリニック)
・脳神経外科専門医、金沢市在住